

# はくあい

H A K U A I

発行所:博愛社/〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3丁目1-72/TEL06-6301-0367 FAX06-6301-5347  
ホームページアドレス <http://www.hakuaisha-welfare.net>



「博愛社こども園」がスタートしました  
落ち葉のプールに落ち葉のシャワー、  
子ども達は大喜び！  
先生たちはせっせとお掃除～(^^♪



こども園となって初めてのページェントを地域の皆さまや保護者の皆さまにご披露しました。イエス様が生まれた時のお話をしっかりと聴き、友だちや先生と話し合い、役柄を決めて取り組みました。本番では子ども達の胸の高鳴りが伝わってくるかのような緊張の中、やり遂げた達成感と満足そうな笑顔がたくさん見られました。その姿を見てまた皆が幸せな気持ちになった一日でした。

## 里親サロンでパーティー 【児童家庭支援センター博愛社】



好みのトッピングで  
手作りピザ

【吉川 詩織】

昨年11月は、『すくすく子育て講演会』と『観月会』を開催しました。どちらも人気のイベントで、講演会では白山真知子先生に「前向き子育て法」についてお話いただき、観月会では天体ボランティアの黄華堂さんと一緒に天体望遠鏡でお月見をし、どちらも好評でした。

当センターでは、地域の里親さんたちが集まってざっくばらんに話す『里親サロン』を月一回行っています。12月は特別編として里親子参加型の『焼き焼きパーティー』を行いました。サテライト特養清心館の地域交流スペースをお借りして、手作りピザやお芋、クッキーなどを薪ストーブで焼きました。子どもも大人もたくさん交流することができ、計27名で賑やかに過ごしました。今後もサロンやイベント、講座等で里親支援を行っていきます。

四季折々

震災から25年

毎年1月17日は阪神大震災の日として多くの人が心にとめていらっしゃると思います。

今からもう25年前の出来事になりました。

私の実家は神戸の須磨ですが、当時は学生でしたので横浜に下宿していました。アルバイトで特別養護老人ホームの朝の支度を手伝ったあと、施設長さん夜勤の職員さんと朝食を囲むのですが、テレビでは地震の速報が流れるものの神戸の震度がなかなか出ず、周りが少しずつ明るくなってきたあたりで震度6という数字と悲惨な光景が映し出されたのを覚えています。

実家の家屋は半壊と診断され建て直さざるを得なくなり、避難先での慣れない生活が遠因で祖母も他界してしまいました。皆さんにもそれぞれ、大切なものを失った悲しみや生活再建のご苦労があると思います。

昨今、風水害も規模が大きくなり、地震もどこで起こってもおかしくない状況になりました。

博愛社でも法人としての「防災力向上」のための研修が始まります。ケアハウスは最上階に位置し、どちらかという被災者の避難受け入れにあたるケースが多いと想像しますが、様々なケースを想定して取り組んでいきたいと思っています。

【ケアハウスはくあい 成田 吉哉】

まさに『昔取った杵柄』

【サテライト特養 清心館】

昨年12月28日(土) 清心館 2階バルコニーにて、清心館で初の餅つき大会を開催しました。当日は、天気にも恵まれ、入居者さんが一同に集まり、大変賑やかな中で行われました。餅をつく人と丸める人に分かれ、それぞれに皆さん笑顔で楽しまれました。

普段、車イスで生活されている男性は、つく時に「すっと」立ち上がって真剣な顔つきでつこうとされており、慌てて職員が側にいきサポートをし、餅をついて



頂きました。「昔は良く餅つきをしたよ」と笑顔で話して下さっていました。他の入居

子どもにつき方のお手本を



者さんからも同じように昔を懐かしむように話されていたのがとても印象的でした。皆

さんの笑顔に来年以降も是非、開催していきたいです。

【宇野 豊】

寿司の日バイキング その後

【特養博愛の園・ケアハウスはくあい】

お寿司が大好きというお年寄りの為に、年に数回「寿司の日」を開催しています。事前のアンケートで選ばれたネタ、その他の巻きや稲荷寿司・ミニうどんを作っています。



お寿司を前に満面の笑み

がられます。

今後は近場でネタを仕入れ、増量可能な模索中です。皆さんの楽しみな催しを無理なく継続出来る様に努めたいです。

【管理栄養士 青木 和美】

昨年9月に再開しましたが、実施方法を再検討し、頻度は同様に、4カ月で全てが回る様にしました。小規模にしたことで作り易く、握りきった寿司も、一部のネタを取り置き目の前で握れる様になり、お年寄りも普段とは見違える食欲を発揮され、召しあ

博愛社後援会会費

▽個人 1口 3千円

▽法人 1口 1万円

いずれも年会費で、

期間は4月～翌年3月

▽郵便振替口座番号

00920・7・4676

▽口座名義

社会福祉法人 博愛社



琵琶湖一周自転車の旅

### 寄付・寄贈に感謝

【児童養護施設 博愛社】

児童養護施設では、一年を通して多くの企業や団体様よりご寄付や様々な楽しい行事やイベントのご招待をいただいております。誠にありがとうございます。今年の夏のキャンプでは、いただいた寄付から、例年よりも多くの予算を費やすことで、SUP(※)の購入や「フ

※ サップ サーフボードのような板の上に立って、パドルで漕ぐマリンスポーツの道具)

ロリックシーアドベンチャーパーク浦富」などへ行くことができました。また、一泊しながら自転車で琵琶湖を一周する中高生もおり、例年になく充実した楽しいキャンプを過ごすことができました。そして年末年始の子ども達にとつての楽しい行事を笑顔で過ごすことができました。皆様のあたたかい支援の賜物だと心より感謝いたします。ご寄付、ご寄贈いただいたご芳名は次号に掲載させていただきます。

【梶川 靖夫】

### 木のぬくもりを感じて…

【こひつじ乳児保育園】



一生懸命床拭き

昨年の9月、「子育て施設木のぬくもり推進事業」を活用し、2歳児保育室の床を張り替えました。今までの床は傷みが目立ち子ども達が安全に遊べないのでは…と考え、張り替えることにしました。

園や保育園などの施設を対象に床や壁などの木材化を進めているものです。子ども達、職員みんなが声を揃え「いい匂い！」と木の香りやぬくもりを感じながら日々遊ぶことができ、また明るくなった保育室でのびのび過ごすことができています。年の暮には子ども達と一緒にこの床をきれいに拭き掃除し、「大切にしていこうね」とみんなでお話もしました。

【金 瑛美】

### ほやほやにこざわって

【デイサービスはくあい】

犬を飼い始め、散歩に出て博愛社内の豊かな木々や緑を感じて頂など取り組んできました。ただ花や緑を見るだけでは面白くないので、イチゴの苗をプランターで栽培して出来たイチゴをその場で食べる。シークワーサーやぶどうに

デイサービスはくあいは、この春に開設20年を迎えることになりました。開設し間もなくより、昼食づくりに取り組み、毎日職員が頭を絞り、腕によりをかけて、手料理を提供してきました。

2012年より「職員以外の関わりについて大切にする」と掲げ、犬を飼い始め、散歩に出て博愛社内の豊かな木々や緑を感じて頂など取り組んできました。ただ花や緑を見るだけでは面白くないので、イチゴの苗をプランターで栽培して出来たイチゴをその場で食べる。シークワーサーやぶどうに



出来立てほやほやのしいたけ

【市原 健藏】



子どもたちも手伝って大賑わいのお店

昨年10月20日(日)に「第31回博愛社フェスティバル」が晴天にも恵まれ、無事開催する事ができました。昨年同様に認定こども園の建設工事に伴い、一部ご不便をおかけしましたが、新しく開設したこども園でゲームコーナー等を行うことが出来ました。また、皆様からの多大なるご寄付や寄贈品により、バザー、模擬店も賑わいを見せ、たくさんの子どもの笑顔に出会う事ができました。さらには、会場内に設置致しました募金箱に

も12,784円のご寄付が集まり、日本赤十字社へお送りさせていただきました。ご協力に重ねて御礼申し上げます。

2020年で博愛社は130周年を迎えました。地域の皆さまに支えられ、愛される博愛社であり続ける為に、子ども達ともに一緒に作り上げるフェスティバルを目指していきたいと思えます。次回の第32回博愛社フェスティバルにご期待下さい。

【勝原 駿】

#### 協賛企業・業者・団体 (順不同・敬称略)

伊藤ハム(株)、(株)エーワンペーパー、お菓子のアトリエ ハンブルグ、(株)吉商大阪、(株)スポーツタカハシ、(株)ダイヘン、(株)大松、武田薬品工業(株)、中辻菓子店、(有)畑中商店、美乃幸精肉店、ヤマト運輸(株)、池永酒店、(株)いしかわ、インテリアショップなかの、国連P.R.I.D.E.日本、ザ・淀川、KVC 稲穂、Tutti Break、アンフィニ@ヒューマンノート、神戸松蔭女子学院大学、プール学院中学校・高等学校、大阪大学フロンティア、大阪市立神津小学校、聖贖主教会婦人会

博愛社史の研究はこれまで史料発掘と整理・保存に力を注いできたが、次第に歴史研究の方に力点を移しつつある。もちろん史料収集と整理・保存は平行して行っていくことはもちろんである。我々の作業は一二五年史の編纂を出発点としている。したがって収集・整理・保存と研究は車の両輪の如く平行してやっ行ってかねばならない。豊富な史料の提供によって、よき年史への貢献ができることはいうまでもないし、今後も継続されていく長期的な視点も必要である。今回は史料紹介とは違って、作業や研究の意味について述べさせていただくこととする。

博愛社史研究の本丸は日本近

代化におけるその位置を如何にみていくかである。換言すれば個別博愛社のみならず、近代の中で福祉(慈善や社会事業)の位置づけである。このことは、今の「社会福祉」の位置を確認する大切な作業である。その歴史はきわめて重い。近代日本は福祉を抜きにしては語れない分野である。その役割を博愛社も果たしてきた。

一つの施設運営を遂行しその責任を担って経営していくことは、戦前、戦後と社会情勢が移り変わる中で如何に大変なこと

#### 博愛社の歴史探検 [29]

### 資料収集と整理・保存、そして研究

であったか。しかしそれをどのような戦略と実践(運動)で乗り越えていったのか。その正確な歴史をみていくことは重要である。そのためには、我々も研究視点を明確にしていくことも

経営の中心であった小橋勝之助や実之助、カツエ、そして林歌子たちの日記を紐解きながら、苦悩や喜び、行動、実践を明らかにしていくことも必要である。また『博愛月報』や『博愛の園』

また以前にも紹介したウイリアム館(東京からの寄付)等々がある。一方、「長者の万灯より貧者の一灯」といった表現もあるが、音楽会を通しての協力や寄付、日々の篤志等々、様々な場面で市民や内外にわたる支援・協力があつてのことである。そのためには出来るだけ、かかる作業の継続と研究が要求される。

機関誌、あるいは書簡などを通して、寄付者の研究も必要であろう。一例を挙げると、戦前の施設「本山館」、これは大阪毎日新聞社の本山彦一の寄付に基づいている(理事長室に同氏の額あり)。また林歌子が日露戦後にアメリカで寄付金を集めての「アメリカ館」、

必要だ。たとえば施設経営につき考えても、戦前において公的な補助金の不足を如何に寄付金でもって補っていたのか。その為とにかく博愛社の存在を人々に知って貰っていたのか。そしてその実態はどうであったのか。

こうした作業を遂行していくとき、博愛社さまには本当にお世話になっています。我々も年史や研究に向け、百尺竿頭一步を進めていく努力が必要であると考えているところです。

室田 保夫(関西学院大学名誉教授)